



2019年 6月 7日 金曜日  
(令和元年)

# 知の技の創造

ものづくり大学発

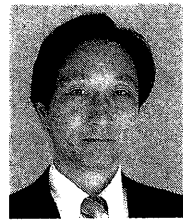
▷45◁

本学では、2002年から投票で順位づけるデザインコンテストも同時に行っている。ものづくりは性能はもちろんだが、デザインも重要な要素です。キットやプラモデルのように手順通りに組み立てれば誰でも同じ形状・性能が得られるものではなく、本格的な部品のみを提供して小学生に自由に製作してもらい、大学生が毎年自分たちで考えて作り上げた立体サーキットでタイムトライアルレースに力をつけて性能を競い合っています。マシンのデザインを動く原理の説明からナイフ

の使用手法まで、大学生が小重要です。軽量化とともに電具の使い方などを親切に教えて、学生に「対一で指導します。池などの重い部品を重心の調「目が輝いていた」目も輝いていた」目も輝いていた。速くする方法は車体の軽量化 整に利用します。タイヤの位「真剣に取り組んでいて感動と安定性のバランスを取る」置やモーターやプリーリーの位した「ものづくりに興味を

## 菅谷諭総合機械学科教授

## 学生と行うものづくり教室



すがや・さとし 東北大学大学院工学研究科修士課程修了。博士(工学)。NEC研究所、アリゾナ大学、静岡理工科大学を経て、2008年よりものづくりの大学。専門は電子情報工

学ヒューマンインタフェース。持つことができた「などがありました。年々向上するレース大会の責任感と自信を獲得していき行いながら、上下学年との繋行いながら、上下学年との繋(つな)がりやを育成し、実社(つな)がりやを育成し、実社の体験学習となつていま時、彼らが世の中のためになつていくことを実感することです。軽量化すれば速くな置も工夫します。ゴムタイヤは転倒しやすくなるため、た、ガタをなくす工夫も安定性との両立を図ることが、保護者の感想には「道公平なレースが実現可能になの二環となつています。このものづくりの教室の長年にわたる活動が評価され、日本ホビー協会主催「第25回ホビー大賞」で特別賞を受賞し、日本機械学会から「貢献賞」を受賞しました。その他のものづくりの教室として、ピンホールカメラの作製などの活動をしています。子供たちも、のづくりに興味を持つ機会となり、また大学生の成長する場ともなるので今後も未永く続けていきたいと考えています。教育は成果が見え難く、分かりやすい数字などでは表せません。ものづくり教室の学生が卒業後大学に来て、仕事の事を楽しく話してくれる時、彼らが世の中のためになつていくことを実感することです。